

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◆生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校
- ◆4つのチカラを引き出し、伸ばす学校
 «育む四つ葉のクローバー（4つのチカラ）»
 (1)【確かな学力】基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
 (2)【コミュニケーション力】豊かな人権感覚を持って違いを豊かさに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
 (3)【課題解決力】「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
 (4)【地域貢献力】地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1)【授業力向上】新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
 ア 授業力向上に係る取組みを教務企画部に位置づける。教科間で協働し、公開授業及び研究協議、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善を進める。
 ※「授業アンケート」全評価軸平均 3.40 をめざす (R2:3.28、R3:3.33、R4:3.30)
 イ 「主体的・対話的で深い学び」の授業、「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定による ICT 機器等を有効活用した授業をより一層展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上を図る。
 ※学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」満足度 R7:85% (R2:77.0、R3:80.6、R4:75.9)
 ※学校教育自己診断（生徒）「ICT 機器が授業等で活用されている」満足度 90%以上を維持 (R2:87.8、R3:91.0、R4:85.8)
- (2)【進路実現の支援】教育産業を活用した基礎学力の定着を組織的に図り、生徒の希望する進路の幅を広げ、その実現を支援する。
 ア 学力向上支援委員会が主導し、教科・学年の協働による教育産業の学習支援プログラムを有効に活用し、生徒個別の学習課題の克服と学習習慣の確立を図る。
 ※学校教育自己診断（生徒）「家庭での学習時間を確保している」肯定率 R7:55% (R2:51.8、R3:49.0、R4:43.6)
 イ 早朝及び放課後や長期休業中の補習・講習の充実に取り組み、校内で自習できるスペースの整備・拡充を進める。
 ※学校教育自己診断（生徒）「補習・講習を十分行っている」肯定率 R7:85% (R2:76.3、R3:78.6、R4:81.6)
 ウ 進路指導部と学年・教科が協働してクラス担任の進路指導力の向上に努め、生徒に寄り添い能力を引き出す指導を行い、希望の進路実現を図る。
 ※学校教育自己診断（生徒）「進路指導満足度」R7:90% (R2:84.2、R3:86.0、R4:88.3)
- (3)【専門コース制の充実】2つのコース（文系・理系）及び2つの専門コース（人文探究・こども保育）における3年間を通じた学習プログラムを構築・遂行し、希望の進路実現を図る。
 ※学校教育自己診断（生徒）「コースや授業は自分の将来に役に立つ」満足度 R7:85% (R2:77.1、R3:78.9、R4:81.2)
 ※生徒の難関私立大学（関西8私大）及び国公立大学の現役のべ合格者数 50人以上とする。(R2:85、R3:45、R4:80)
 ※生徒の難関私立大学（関西12私大等）及び国公立大学の現役のべ合格者数 170人以上とする。(R2:224、R3:155、R4:208)
 ※令和5年度入学生の専門コース選択者について、こども保育専門コース 20名、人文探究専門コース 40名をめやすとし、生徒のニーズに応じた進路指導を充実させる。

2 コミュニケーション力の育成

- (1)【生徒指導の充実】基本的な生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
 ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS 使用上のモラル向上、遅刻指導の強化、安全通学の啓発を全教職員で取り組む。
 ※学校教育自己診断（生徒）「基本的な習慣の確立に力を入れている」肯定率 80%以上を維持 (R2:75.4、R3:76.1、R4:77.2)
 ※年間遅刻者数、1,000 以下を維持 (R2:1,031、R3:802、R4:734)
- (2)【ともに高めあう集団育成】特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
 ア 部活動や各種行事を通じて周囲との協調性を養い、課題に向かって仲間とともに越える力を醸成する。
 ※学校教育自己診断（生徒）「学校行事満足度」80%以上を維持 (R2:73.9、R3:67.7、R4:78.5)
- (3)【人権尊重の教育の充実】一人ひとりを大切に、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
 ア 心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。
 ※学校教育自己診断（生徒）「学校の人権意識育成姿勢」肯定率 90%以上を維持 (R2:85.6、R3:85.6、R4:89.1)

3 課題解決力の育成

- (1)【主体的・対話的で深い学びの実践】授業や学校行事等において、生徒の主体的・対話的で深い学びの機会を持ち、思考力・判断力・表現力を育成する。
 ア 「総合的な探究の時間」では、調べ学習に終わることなく自分の考えを発表する機会を積極的に設定する。また、3か年の実施計画を作成する。
 イ グローバルな視点を養い、SDGs の達成のために「いつ・どこで・だれと・何を・どのように」行動すればよいか考え、自ら主張できる力を醸成する。
 ※学校教育自己診断（生徒）「自分の考えをまとめて発表する」肯定率 65%以上を維持 (R2:54.4、R3:53.0、R4:57.2)
- (2)【部活動の充実】部活動を通して自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。
 ※学校教育自己診断（生徒）「部活動に積極的に取り組む」肯定率 60%以上を維持 (R2:61.4、R3:59.7、R4:57.9)

4 地域貢献力の育成

- (1) 教科・学年・分掌・部活動との協働による地域交流や社会資源を活用した教育活動を拡充する。
 ア こども保育専門コース生徒によるこども園等への出前授業や交流。
 イ 人文探究専門コース、一般系生徒による小・中学生への出前授業等の実施。
 ※生徒による出前授業や地域交流の範囲を広げ、参加生徒が達成感を実感し、自己肯定感が高まるような活動内容の充実を図る。
- (2) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育・防災教育の推進、主体的に清掃する意識と行動力を養う。
 ※学校教育自己診断（生徒）「命を大切にすることを学ぶ」肯定率 90%以上を維持 (R2:85.4、R3:85.2、R4:91.1)
 ※学校教育自己診断（生徒）「清掃が行き届いている」肯定率 R7:80% (R2:68.2、R3:71.2、R4:78.3)
- (3) 開かれた学校づくりの推進
 ア 学校運営への一層の協力・理解を求め、保護者に対する情報提供をきめ細かく行う。
 ※学校教育自己診断（保護者）「教育情報の提供」満足度 R7:78% (R2:76.8、R3:74.6、R4:71.1)
 ※学校教育自己診断（保護者）「本校 HP をよく見る」肯定率 R7:55% (R2:56.4、R3:40.1、R4:40.0)
 イ 地域に信頼され、地域の誇りになる学校をめざし、生徒と地域との交流を積極的に進め、地域とのつながりを強める。
 ウ 中高連絡会の充実など、生徒が通う地域の中学校との連携を深める。

5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 普通科専門コース設置校としての学校経営を推進し、教育活動の実施・改善に向け、円滑な学校運営とその機動力を高めるため組織力を強化する。
 ア 運営委員会の活性化を図り、担当する分掌・学年のリーダーとして相互に連携・協力して、様々な課題を解決する計画の立案に携わる。
 イ 教員間の OJT を機能させ、経験年数の少ない教員、ミドルリーダーの育成を図る。
 ウ 「働き方改革」の推進のため、1階大職員室の機能を生かし、職員間の迅速かつ正確な情報共有を図り、分掌・学年・教科相互の連携を強める。
- (2) 「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定により、1人1台端末の利活用促進に向け、校内体制を整備し推進する。
- (3) 教職員対象の本格的な実働防災訓練の実施について研究し、地域と協働する等、防災意識と実践力の向上を図る。
- (4) 支援を必要とする生徒への支援体制を充実し、家庭や地域との連携を深め、全ての生徒に対し、安心して安全な高校生活が保障できるように努める。
 ア SC 及び SSW を配置し、校内教育相談体制を充実させるとともに、外部公的機関との連携を深め、迅速かつ的確な支援を行い中退防止等に努める。
 ※学校教育自己診断（保護者）「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応」肯定率 R7:80% (R2:73.4、R3:78.6、R4:68.4)
 イ 個別の支援計画の策定・実施を分掌・学年・教科の協働により組織的に遂行し、すべての生徒が安心安全に学ぶ環境づくりを進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分] ※表中の()は前年度比	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】</p> <p>・今年度は、5月にコロナが5類に移行したこともあり、従来あった教育活動を徐々に展開することができた。</p> <p>学習活動に加え、行事活動では校外学習・体育祭・文化祭・修学旅行・球技大会などの実施や、部活動・地域交流活動における公式戦や各種大会・発表会、恩智川の清掃活動（クリーンワーク）や池島音楽祭などの地域イベントに参加できたことは、生徒にとってたいへん有意義な経験となり教育効果を生み出すことにつながった。保護者の方々の理解と協力を得ながら教育活動を進められているが、より一層の情報発信にも努めていきたい。組織運営においても連携・協力を図る行動意識がさらに向上したと思われる。大阪府の「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定校に選ばれたことで、より一層 ICT 機器を生かした授業づくり、効率的で効果的な学校運営を進めていくことができている。</p> <p>【学校満足度】</p> <p>○生徒「入学してよかった」：86.3%(+3.5)、「学校に行くのが楽しい」：83.7%(+0.3)</p> <p>○保護者「入学させてよかった」：92.2%(+1.6)、「楽しみにしている」：82.3%(-2.0)</p> <p>下降になっているものがあるが、概ね高い水準が得られている。</p> <p>○「特色ある教育活動」生徒：77.5% (+10.0)、保護者：61.6% (+8.8)</p> <p>○「コースや授業は役立つ」生徒：86.5% (+5.3)、保護者：86.5% (-0.5)</p> <p>コロナが収まり、コロナ前の通常の活動に戻って来たことが大きな要因であると考えている。本校は「地域に根ざし、地域とともに歩む学校」を掲げ、「こども保育専門コース」での保育実習、近隣の保小中との連携・交流、有志や部活動生徒による地域イベント参加や清掃活動なども復活できている。こうした地域に根差した活動についても保護者との情報共有を図っていくことが必要であると考えている。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>○「教え方に工夫、授業はわかりやすい」生徒：75.7%(-0.2)、保護者：58.2%(-7.0)</p> <p>○「ICT 機器の活用」生徒：95.1%(+9.3)、教員：91.5%(+2.4)</p> <p>○教員「授業方法等の検討する機会を積極的に持っている」61.7%(+13.9)</p> <p>「年間の学習指導計画を教科でよく話し合っている」72.3%(+13.6)</p> <p>○生徒「自分でまとめる・発表する」80.5%(+23.3)</p> <p>○「家庭学習時間の確保」生徒：48.5%(+4.9)、保護者：50.8%(-1.6)</p> <p>○「補習・講習は十分」生徒：86.5%(+4.9)、保護者：71.0%(-5.3)</p> <p>「授業はわかりやすい」については、減少しているため、原因を究明し、引き続き授業の改善に取り組んで行く必要がある。ただ、生徒の「自分でまとめる・発表する」が大きく上昇しているため、授業の内容については大きく評価したい。「ICT 機器の活用」については、本校は「リーディング GIGA ハイスクール」の研究指定校に選ばれていることも大きな要因と思われ、ネット環境や黒板の設備なども改善できている。「家庭学習時間の確保」の数値は大きな課題であり、改善に向けての具体的な方策を組織的に考え、進めていきたい。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○生徒「先生の指導は適切」84.3%(+2.9)、「基本的習慣の確立」82.8%(+5.6)</p> <p>○保護者「指導方針に理解」79.0%(+4.9)、「指導に協力」85.8%(+11.5)</p> <p>生徒の理解や協力はもちろんであるが、保護者の協力と教員の地道な指導の成果だと考えられる。引き続き行っていきたい。</p> <p><相談対応> ○生徒「先生は意見をよく聞く」86.6%(+5.9)</p> <p>「担任以外に相談できる先生がいる」72.2%(+11.6)</p> <p>○保護者「相談に適切に応じる」81.3%(+2.4)、「生徒の相談に親身」74.0%(+5.6)</p> <p>先生方の努力の賜物であり、引き続き相談体制充実に努めていきたい。</p> <p><進路指導> ○生徒「進路実現に向けて適切な指導」92.9%(+4.6)</p> <p>「奨学金について十分に説明」87.8%(+5.7) ※保護者 77.5%(+2.3)</p> <p>「コースガイダンスは適切」93.9%(+3.3)</p> <p>○保護者「進路情報提供は適切」81.3%(+5.7)、「進路指導が適切」86.2%(+9.5)</p> <p>日々の担任と進路指導部の指導やサポート、「総合的な探究の時間」や進路 HR、キャリア教育、卒業生による講話等の成果である。引き続き保護者への情報提供・周知の工夫に努めたい。</p> <p><人権教育> ○生徒「クラスやクラブは話せる集団」86.2%(-0.2)</p> <p>「人権教育の推進」90.4%(+1.3)、「命の大切さや規範意識を学ぶ」92.9%(+1.8)</p> <p>人権尊重の教育と生徒の理解との相乗効果だと捉え、引き続き人権教育の推進を図る。</p> <p><部活動> ○生徒「部活動に積極的に取り組んでいる」62.6(+4.7)</p> <p>部活動に参加している生徒の意識は高まっているが、部活動加入率は前年に比べ少し減少している。部活動の魅力を発信し、「合同部活動大阪モデル」も推進しながら、今後も部活動の意義を損なうことなく生徒の成長を図りたい。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>○教職員「組織的な講習」78.7%(+11.3)、「学校行事の工夫改善」89.4%(+6.8)</p> <p>「学年・分掌は組織的」68.1%(+15.9)、「組織間の連携」66.0%(+20.3)</p> <p>○生徒「先生は協力して指導」84.2%(+5.0)</p> <p>○保護者「家庭への連絡・意思疎通」73.0%(+7.5)「教育情報の提供」80.4%(+9.3)</p> <p>「組織間の連携」について、教職員の意識と努力により、大幅に上昇し、生徒からも先生方は協力して指導しているとの好評価を得た。働き方改革も謳われている中、引き続き教職員による主体的で持続可能な組織運営をめざしたい。</p> <p>○「ホームページ」生徒 20.7%(+5.8)、保護者 37.1%(-2.9)</p> <p>なかなか閲覧率があがらないので、原因を探り、ホームページの刷新も含めて検討したい。</p>	<p>【第1回】6月22日（木）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理系を希望する生徒が少ないように感じる。 ・大学見学はどのようなところに行くのか。 ・今のこどもたちは、なかなか進路を決められていないのではないだろうか。 ・大学側も生徒のニーズに合わせて、様々な学部を準備している。パンフレットにはいい事しか書いていないので、オープンキャンパスにどんどん行くべきである。 ・大学の授業料は年間100万円以上かかることが多い。しっかりと情報を入手して、後悔のないようにしてほしい。 ・地域としては、できるだけ地域連携してほしいと思っている。 <p>→本校の地域貢献部では、ボランティア活動を通して、地域と連携し、人とつながることのできる生徒の育成をめざしている。花園商店街や寝屋川水系改修公営所などと連携して、菜の花から抽出した油を用いたのキャンドルナイトを計画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生からは新カリキュラムだが、何が変わったのか。 →3観点別評価については、今まだ手探り状態である ・大学側からは、高校でどのように教えているのかをよく知らないため、大学入試は今のところ大きくは変わらないと考えている。 ・観点別評価に変わり、評価の人数に影響はあるか。 ・指定校推薦の基準も変更したほうがいいのかではないだろうか。 ・地域連携での防災訓練を今年度から再開する予定である。現在は池島学園と連携して進めている。 →この周辺地域は、1次避難所は池島学園小・中学校、2次避難所はみどり清朋高校である。昭和40年代、学校周辺は水害がとてひどかったが、かなり改善されている。 <p>【第2回】10月2日（月）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の授業交流を行い、教員がお互いに授業見学を行っているのは良いと思う。 →保育園でも相互の授業見学を実施したいと考えているが、なかなか実施できていない。経験を持っている先生は引き出しがたくさんあるので。 →中学校では教員が3人グループを作り、その中で相互に授業見学を行っている。 →授業見学はお互いにいい影響を与える。見せる方もより良い授業をめざすので良い効果がある。 ・授業アンケートの「予習・復習がほとんどできていない」が気になるが、学校の目が届かず、定着させるのは難しいと思う。 ・ICTを活用するために研修会を何度も開催した効果がでているのでは？ →生徒もタブレットをしっかりと活用している。 →プロジェクターを活用している授業が多く、授業の進度も生徒の吸収するスピードも以前よりアップしている印象を受けた。 →先生方がプロジェクターに投影しているデータを生徒が後で希望すればもらうことができるのか。 ⇒生徒向けに配信されているデータは後ほど見ることができる。 ・こども保育専門コースを選択する生徒が増加していることがうれしい。 <p>【第3回】令和6年2月5日（月）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目の授業アンケート結果は、1回目とほぼ同じであった。80%を超える生徒が肯定的な回答である。一方、授業アンケートの評価が低い教員もいるが、管理職から改善点などをフィードバックしている。 →企業でも教員免許を持っている人は複数いる。教員免許を持っていても、教員にならない人が増えているということは、学校現場の課題ではないか？ ・学校教育自己診断の結果は、ほとんどの項目で肯定的な回答が増えている。数値のアップについては、コロナの制限がなくなり、以前のような学校教育活動ができたことが要因とも考えている。 ・学校教育自己診断の「家庭での学習時間を確保している」の肯定的な回答が伸び悩んでいるので、何とか対策を考えたい。 →中学校でも家庭学習の定着は難しい。 ・教員の働き方改革も進めることができている。特に、電話がつながる時間を8時～17時にしたことや朝の欠席連絡をメールにしたことが大きい。 →中学校は7時45分～19時は電話がつながる。中学生は高校生よりも幼いので、保護者との連絡は大切にしている。 →保護者としては、担任の先生と接する機会が減ってきていると感じている。 ・進路指導については、しっかりと進路目標を持たせることが年々難しくなっているように感じている。大学に進学する目的を持っていない生徒が多く、行きたい大学ではなく、行ける大学に流れる傾向がある。生徒一人ひとりの進路実現に向けて、最後まで諦めずに努力させたい。 →大学については、進学しやすくなったこともあり、行きたい学部を選ぶ高校生も増えてきている。ただ、早く進路を決めたいのか、一般入試の出願数は例年より減少している。 →中学校では、私立高校の専願での受験者数が増加している。公立高校よりも早く合格が決定するため、合格後は勉強しなくなる。その結果、高校に入学するまでに学力が低下するということがよくある。 ・学校の施設・設備について、PTAで協力できることがあれば、言っていただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値] *%は肯定率	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)授業力向上 ア 授業改善に組織的に取り組む イ ICT 機器を活用した授業づくり</p> <p>(2)進路実現の支援 ア 学習習慣の確立に取り組む イ 組織的な補習講習体制の確立 ウ 進路指導力の向上と生徒の能力を引き出す指導の実践</p> <p>(3)専門コース制の充実</p>	<p>(1)ア・研究授業、相互授業見学等の組織的な実践 ・「観点別評価」の実践及び検証、次年度案作成 ・実習・体験学習の推進（校外も含む） ・新学習指導要領に則ったカリキュラムの策定 ・令和7年度入試を見据えた授業内容等の検討 イ「考える授業」、発表の機会を増やす授業展開の実践 ・1人1台端末及び ICT を活用した授業展開の開発・実践（「リーディング GIGA ハイスクール」研究活動）</p> <p>(2)ア・授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 ・教育産業を効果的に活用する学習支援体制の確立 イ・教科を主体とする校内講習体制の確立 ・早朝や放課後、長期休業中の講習等の充実 ウ・令和7年度「共通テスト」の動向の把握と共有化 ・担任の進路指導力向上に資する情報交換会等の実施 ・生徒、保護者への適時な進路情報の提供と周知徹底、 ・大学見学会、外部説明会への参加、卒業生による講話 同友会講演会等を活用した進路意識の向上 ・各種検定試験への挑戦、資格取得による意欲向上</p> <p>(3)・令和5年度入試結果を踏まえた分析結果の共有 ・分析結果を生かした専門コース、一般文系・理系生徒への学習計画の構築及び実践 ・子ども保育専門コースにおける教科間連携の充実、地域の子ども園等との交流の拡充、さらなる充実</p>	<p>(1)ア・生徒「入学満足度」85% [82.8%] ・授業アンケート全評価平均 3.30 以上 [3.30] ・生徒「授業はわかりやすい」80%以上 [75.9%] 令和7年度「共通テスト」への対応に向けた研究 ・教職員「授業方法等の検討機会」50%以上 [47.8%] イ・生徒「ICT 機器の活用」85%以上 [85.8%] ・教職員「ICT 機器活用」90%以上 [89.1%] ・授業アンケート「5教材活用」平均 3.45 [3.38] ・校内外向け研究授業、研究協議を実施（12月までに）</p> <p>(2)ア・生徒「家庭学習時間の確保」50%以上 [43.6%] 新たな学習支援教材の成果検証と改善 イ・生徒「補習講習は十分行っている」80%以上 [81.6%] ウ・教職員「組織間の連携」45%以上[45.7%] ・生徒「進路指導満足度」85%以上[88.3%] 保護者向け説明会、座談会等の充実 ・保護者「進路情報提供満足度」78%[75.6%] ・各種検定試験受験者数、合格者数、有資格者数の状況</p> <p>(3) 生徒の希望に応じた進路指導を丁寧に行う。 ・関西 8 私大・国公立大の現役のべ合格者数 40 人以上 [81] ・関西 12 私大等・国公立大の現役のべ合格者数 150 人以上 [209] ・園児と交流する授業を推進する。</p>	<p>(1) 「リーディング GIGA ハイスクール」の研究指定校に選ばれたこともあり、ICT 機器の活用が進み、生徒の発表の場が増えている。 ・「入学満足度」86.3% (○) ・授業アンケート平均 3.33 (○) ・「授業はわかりやすい」75.7% (△) ・「検討機会」61.7% (◎) ・生徒「ICT 機器の活用」95.1% (○) ・教職員「ICT 機器の活用」91.5% (○) ・授業アンケート「5教材活用」平均 3.42 (△)</p> <p>(2) 入学時より勉強方法や1人1台端末の活用方法を指導している。補習や講習も早朝や放課後、長期休みを利用して行っている。保護者に対しても、綿密に進路の情報を提供している。 ・「家庭学習時間の確保」48.5% (△) ・「補習・講習は十分行っている」86.5% (○) ・「組織間の連携」66.0% (◎) ・「進路指導満足度」92.9% (◎) ・「進路情報提供満足度」81.3% (○)</p> <p>(3) 担任や進路指導部員による日々の丁寧な進路指導、進路説明会などを系統的に行っている。 ・「関西 8 私大等現役のべ合格者数」23 人 (△) ・「関西 12 私大等現役のべ合格者数」106 人 (△) ・地元の保育園 2 園と授業を通して生徒が主体的に交流できた。夏季休業中に保育園での実習も行うことができた。(○)</p>
2 コミュニケーション力の育成	<p>(1)生徒指導の充実</p> <p>(2)ともに高め合う集団育成</p> <p>(3)人権尊重の教育の充実</p>	<p>(1)・全教職員による生徒指導課題の共有、共通理解 ・生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底</p> <p>(2)・グループワーク等を導入した表現力、発信力の育成 ・生徒会活動、行事における生徒の主体的な活動の充実 ・学校行事実現・充実のための感染症対策と計画の策定</p> <p>(3)・一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくり、学級経営の実践 ・豊かな人権感覚を醸成する「総合的な探究の時間」の実践による体系化、道徳教育の推進</p>	<p>(1)・生徒「基本的習慣の確立」75%以上 [77.2%] ・遅刻者数 1,000 以下を維持 [734]</p> <p>(2)・生徒「まとめて発表」55%以上 [57.2%] ・生徒「クラス活動が活発」75%以上 [81.6%] ・生徒会を中心とする新たな活動の実現（2件以上）</p> <p>(3)・生徒「クラスやクラブは一人ひとりが尊重」85%以上 [86.4%] ・生徒「人権教育の充実」85%以上[89.1%] 関係委員会の連携による系統的プログラム作り</p>	<p>(1) 生徒の理解と頑張り、早朝からの教職員による駐輪場や下足室、廊下での声掛け、担任による丁寧な SHR の運営の成果である。 ・「基本的習慣の確立」82.8% (○) ・「遅刻者数」878 (○) (2) 本来の授業形態やクラス活動が戻りつつある。生徒の主体的な活動の場を広げ、主体性の向上に取り組むたい。 ・「まとめて発表」80.5% (◎) ・「クラス活動が活発」86.8% (◎) ・「新たな活動の実現」1件 (△) (3) 様々な人権課題について考えるを通して、生徒の人権に対する意識が高まっている。引き続き、学校をあげて人権尊重教育に取り組んでいきたい。 ・「一人ひとりが尊重」86.2% (○) ・「人権教育の充実」90.4% (○) ・「総・探」は各学年の活動が組織的にかつ連携を取りながら運用できるようにする。(○)</p>
3 課題解決力の育成	<p>(1)主体的・対話的で深い学びの実践</p> <p>(2)部活動の充実</p>	<p>(1)自分の考えをまとめて発表する学びの充実 ・論理的思考力・判断力・表現力の育成 ・SDGs に関する探究活動の企画・実践 ・読書活動、図書館を活用した教育の推進</p> <p>(2)「部活動改革」によるペア校との連携 ・クラブ間交流の企画運営、外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・中学校との部活動交流のさらなる充実 ・ホームページによる活動報告等の随時発信</p>	<p>(1)・生徒「まとめて発表」55%以上 [57.2%] 各教科の授業や「総合的な探究の時間」で SDGs に関する研究発表を計画的に実施する。 第2 LAN 教室の有効活用 ・ビブリオバトル等、読書活動・発表活動の充実を図る。 (2)・部活動加入率 58%以上 [58.9%] ・外部指導者を拡充し活動の充実を図る。 ・ホームページへの更新、アクセス数を維持</p>	<p>(1) 「総・探」で SDGs に関する探究とプレゼンでの発表ができた。 ・「まとめて発表」80.5% (◎)</p> <p>(2) 「合同部活動大阪モデル」を推進し、さらに外部指導者も招聘して、部活動が行われている。部活動の魅力も発信し、加入率のアップにつなげたい。 ・「部活動加入率」50.1% (△) ホームページの更新については、伸び悩んでいるので、ホームページの刷新も含めて、今後検討していく。</p>

府立みどり清朋高等学校

4 地域貢献力の育成	<p>(1)地域と連携した教育活動の展開</p> <p>(2)防災意識の啓発</p> <p>(3)開かれた学校づくりの推進 ア タイムリーな保護者への情報提供 イ 中学校等への広報活動</p>	<p>(1)・地域の学校や福祉施設などの連携と広報の充実 ・小・中学校への出前授業、こども園等での生徒の実習体験、自治会事業への参加の推進 ・部活動での小・中学生との交流 ・学校周辺の美化活動の推進</p> <p>(2)実働防災訓練の経験を生かした防災避難訓練の企画・実践。防災教育の取組みの実践</p> <p>(3)ア・ホームページの活用による教育情報の提供 ・保護者対象の授業見学会や講演会の充実 ・学校行事における PTA との一層の連携 イ・生徒が活躍する学校説明会を開催（年3回以上） ・地域に根ざした中高連携の内容充実 ・出張模擬授業の実施、中学生への授業公開</p>	<p>(1) 地域との交流活動、貢献活動の奨励と成果発信 ・生徒「地域の人々などと交流」肯定率40%以上 [37.4%] ・生徒「学校の美化」80%以上[78.3%]</p> <p>(2) 実働防災訓練の再検討 ・感染症対策を講じた防災避難訓練の実施 ・生徒「命を大切にすること」90%以上維持[91.1%]</p> <p>(3)ア・保護者「教育情報の提供」76%[71.1%] ・本校 HP の充実と運営、アクセス数を維持 イ・生徒の司会進行による学校説明会（年2回以上） ・部活動での中学生交流会の実施（5部以上） ・出張模擬授業、体験授業（招待）を年間計3回実施</p>	<p>(1) 保育園2園との交流、保育園での実習、中学校での説明会への参加、「池島音楽祭」や恩智川の美化活動への参加、老人ホームへの慰労活動などが実施できた。 ・「地域の人々などと交流」 45.0% (○) ・「学校の美化」85.6% (○) (2) 4月に東大阪市消防署の協力を得て実施できた。 ・「命を大切にすること」 92.9% (○) (3) PTA 活動については、体育祭の協力、文化祭でのバザー、社会見学、文化教室の開催などを行うことができた。中学校へ出前授業は1回行った。中学生を招待しての授業は実現できなかったが、文化祭へ招待したら、たくさんの中学生在来てくれた。学校説明会は4回行い、4回とも生徒が司会、説明、誘導、案内などを行ってくれた。中学生や保護者には生徒の生の声が聞けたということで好評であった。 ・「教育情報の提供」80.4% (○) ・「生徒の司会進行による学校説明会」4回 (○) ・部活動での中学生交流会の実施」7部 (○) ・出張模擬授業、体験授業 1回 (△)</p>
5 学校運営体制の強化	<p>(1)持続可能な学校組織運営の確立</p> <p>(2)新しい学校づくりを進める運営体制の強化</p>	<p>(1)・スクールミッション及びスクールポリシーの策定に向けた教育活動の再評価 ・全教職員が教育目標達成に向けて、協力し支え合い実践する組織づくり ・経験年数の少ない教員への OJT、ミドルリーダーの育成 ・分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団の形成 ・校務多重化の解消と「働き方改革」の推進、時間外超過勤務の削減 ・SSW 配置を継続し、教育相談支援体制を充実する。</p> <p>(2)・1人1台端末の活用に向けた校内体制整備 ・ICTを活用した授業実践に向けた教員研修の実施、好事例の共有</p>	<p>(1) 将来構想委員会を中心に、本校のミッションを踏まえ3つのポリシーを計画的に策定・公表する。 ・生徒「先生は互いに協力して指導」70%以上 [79.2%] ・教職員「組織間の連携」45%以上[45.7%] ・教員の時間外超過勤務時間の月平均値を前年度比2時間減、4～2月[27.5時間] ・SC、SSW、相談室、保健室、委員会間の連携充実 ・教職員「教育相談体制の整備」65%以上 [60.9%]</p> <p>(2)・校内体制の整備を行う 職員会議の「ペーパーレス化」の成果検証と改善 学校教育自己診断項目の再検討</p>	<p>(1) 何事にも「チームみどり清朋」として組織的に取り組むよう促した。SC や SSW ともしっかり連携が取れていた。 ・「互いに協力して指導」 84.2% (◎) ・「組織間の連携」66.0% (◎) ・「時間外月平均値」24.4h (○) ・「教育相談体制の整備」 83.0% (◎)</p> <p>(2) 「働き方改革」の10項目については、実施時期が遅くなった項目もあったが、教職員の理解・協力があがり、実施することができた。 ・職員会議の「ペーパーレス化」は年度当初から実施し、デジタル化によって前もって資料を見ることができ、会議の時間短縮につながっている。(○) ・学校教育自己診断の項目についても見直すことができた。(○)</p>